

未来志創

よっしゃ！顔晴ろう！

合唱コンクールを終えたと思いきや、次は後期の学級組織作りや金沢校外学習、テキスト学習等、やる事が盛りだくさんですね。その分、挑戦するチャンス、成長するチャンスです。大変だからこそ、「よっしゃ！」という気持ちで、前向きに取り組んでいきたいものです。ただ、挑戦すれば必ず「うまくいった」「思うようにいかなかった」という結果が待ち受けています。自分が望んだとおりになればよいですが、思うようにならなかつたら、時には「挑戦しなければよかった」と思ってしまうこともあるのではないかと思います。誰だって失敗は怖いものです。でも「それは本当に“失敗”なのか？」と考えさせられるお話です。

行動の結果手に入るピースには、失敗も成功もない！？

「…例えばこういうことだ。ある人間がこのピースを手に入れたとする。

そのピースにはシマウマの頭の部分が描かれていた。

「そこである行動の結果このピースを手に入れたとする」

次にアクトが指し示したピースは、シマウマの首から肩にかけて描かれているもので、先ほどのピースとぴったりと合って、ひとつの絵をなした。

「さて、そうすると自分の探し求めているものが手に入ったとして、成功したと喜ぶ。そして、今度この隣にぴったりと合うピースを求めてまた行動を起こすのじゃ。ところが今度はこれが手に入る」

アクトが指差したピースはただ紫色をした一色のもので、何に使うのか全く見当もつかないものだった。つい先ほどまで絵になっていたものからはがれ落ちるのを見たので、その絵を完成させるのに必要なピースであることがわかるのだが、そうした予備知識がなければ、**絵の一部であることすら、誰にもわからない**ものであった。

「そうすると、それを**自分の探し求めるピースではないとして、大切にっておかなくなる**のだ。そして、先ほどのシマウマの隣に来るものが出てくることだけを期待して行動をくり返すのだが、それはなかなか出てこない。そして途中で行動そのものをやめてしまうのだ。考えてみればわかると思うが、**大きな夢を描けば描くほど、欲したピースが手に入る可能性は低くなる**ものなのだ。

だから、欲したピースが手に入ることを成功、手に入らないことを失敗と考える者にとっては、せっかく大きな夢を抱いて行動をしても、結果として返ってくるものは失敗だらけということになってしまう。

～中略～

…**行動の結果として手に入るピースには、失敗も成功もない。**

ただ最終的に、自らの思い描いた絵を完成させるために**どうしても必要であるからこそ、手元にやってきた**という事実があるのみなのだ。

その絵を完成させたときに自分の手に入れてきたピースの一つひとつが、どこでどう使われているのかを見て、ようやくわかるのだよ。ああ、あの辛い経験がここに使われることになっているんだな、すべての財産を失ったあの経験がなければ、ここを埋めることができなかつたんだな、といった具合にな。

『賢者の書』(喜多川泰)より

今、自分が「失敗」と感じていることは、実は「成功への一歩」なのかもしれません。「目の前で起こる出来事は、すべて今の自分にとって必要だから起こる」とも言われます。つまり、一つひとつの経験が、結果がどうであれ、とても大事な経験になるということです。目の前で起こる事実の一つです。あとは、それを「どう捉えていくか」が大切なのです。

～自分の役割を果たす～

昨日の放課後に撮影した2Bの教室です。机が縦・横がきれいに整えられていました。きっと日直の人が、丁寧に役割を果たしてくれたのでしょう。毎朝、環境が整えられている教室に入ると、快く一日をスタートできると思います。毎日行う日直の仕事は同じですが、一つ一つに心を込めて行ってくれたことが嬉しかったです。ありがとうございます！

